

2016-009 「酒・たばこ・ギャンブル等の悪習慣について聖書は何と言っているか」

マラナサ・グレース・フェロシッポ 菊地 一徳氏

それでは今晚のテーマは、「酒・たばこ・ギャンブル等といった悪習慣について聖書は何と言っているか。」中には、「酒・たばこ・ギャンブルは悪習慣ではありません。私にとってはもう良い習慣で、これがなければストレス解消が出来ません。これが私の生き甲斐なんです。これが唯一の楽しみなんです。息抜きなんです。それがあってこそ私は人生を豊かに生きることが出来る。家庭でも職場でもそれらがあるからこそ私はやっつけていけるんだ。私のエネルギー源です。」なんて言う人もあるかもしれません。ですから、「それらを悪習慣と呼ばれるのは心外です。」と、もう最初から異を唱える人もあろうかと思えます。でも、良い習慣がどうかは、皆さんもきつとどこかでは本当は分かっていると思えます。それが必ずしも良い習慣ではないということぐらいは、多分本当は分かっていると思えます。クリスチャンにおいてもいろんな意見があります。クリスチャンは酒を飲むこと、タバコを吸うこと、それをどう思っているのか。酒を一切飲んではいけぬのか。タバコを一切吸ってはいけぬのか。パチンコや競馬・競輪・競艇、そういったギャンブル。あるいは宝くじ。それらはクリスチャンとしてどうなのか。罪なのかどうか、関心のあるところだと思います。

まず、ここで初めに誤解を解いておきたいと思えます。その誤解というのは、日本人に多く見られるものであります。それは何かと言いますと、人に迷惑さえかけなければいいのではないかと、という誤解であります。クリスチャンでありながらも日本人はこのような染み付いた考えの中で固められてしまっています。小さい頃から「他人様に迷惑をかけるように生きていきなさい。」と。中には、「相手も喜ぶし、私もお金ももらえて嬉しいし、誰にも迷惑なんかかけていないんだ。」と言って、^{からだ}身体を売って援助交際なるものをする女子中学生、女子高生もあります。「減るものじゃないし、それでみんな喜ぶし、私もお金が入って好きなブランドものを買えるし。」最近では男子高校生も身体を売るようになりました。ニュースでも報じられています。迷惑さえかけなければ何をしたらいいじゃないか。そのように訓戒されて日本人は育てられてきているかと思えます。

残念ながらクリスチャンもそのような訓戒を自らの見解にしてしまっている人たちがいます。聖書は何と言っているかよりも、誰にも迷惑をかけていないのだから別にいいじゃないかと。他人だけには迷惑をかけるなど、それを1つの基準に。悪いことは他人に迷惑をかけること。迷惑さえかけなければ何をしたら構わないんだという、そのような基準です。善悪の基準と言って良いと思えます。それは別の言い方をしますと、人がどう感じるかどうかです。それで決まってしまうような主観的な、あるいは相対的な基準というものです。主観的・相対的基準ですから、自分が基準であったり、また人が基準であったりするわけです。コロコロ変わるということです。人によってその見解はコロコロ変わる。その基準はコロコロ変わるということです。勿論時代によっても変わると思えます。でもそれはコロコロ変わってしまうという基準ですから、基準であって基準でないようなものであります。そのようなコロコロ変わるものを基準としている限り、あなたも振り回されていきます。何が正しいのか。何が良いことか。何が悪くて、いけないことか。それがそのうち分からなくなって、混乱して、麻痺してしまいます。最終的にはまるで自暴自棄になったかのように、「他人様に迷惑さえかけなければ何をしたらいいんだ。」と、自分にそう言い聞かせて、良心が痛もうと「迷惑さえかけなければそれでいいんだ。」と、一生懸命自分を正当化するようになります。ますます頑固になっていきます。そのような誤解をまず皆さんにお伝えして、クリスチャンはこれを基準にしてはならないということです。私たちには、神の基準が与えられているということです。それが変わらぬ言葉、聖書という基準であります。何事においてもまず、聖書は何と言っているか。自分がどう思うか、ではないです。世間がどう言っているか、ではないです。今の時代が何を求めているか、ではなくて、神様が何とおっしゃるか。神様はどう思われているか。それは主に喜ばれることかどうかです。それがクリスチャンが持つべき基準であります。

もう一つ実は誤解されてしまっているところがあります。それは、クリスチャンライフというものがまるで一つ一つの行為を善と悪のリストに分けて、「これは善、これは悪。」と。そして事細かなリストを設けて常にビクビクしながら、オド

オドしながら、不安を抱えながら「これは罪だろうか。どうなんだろうか。」と。悪いことを避けて、正しいことを選んで生きていくことは、勿論悪いことではないんですけども、ただそうやって善と悪の線引きをすることがまるでライフワークのようになって、それがまた自分だけではなく他の人にも要求しながら「あの人はあんなことをやっている。こんなことを言った。あんな生活を送っている。駄目じゃないか。いけないんじゃないか。どうなんだろうか。」もうそんなことで頭がいっぱいです。ちらちら他の人のことを見ながら、気になって気になって「クリスチャンなのに。」とか。それがクリスチャンライフではないということを知って下さい。

私たちにはキリストにある自由が与えられています。そのことも聖書の中から皆さんにお伝えしていきたいと思えます。**ガラテヤ 5:13**にこう書いてあります。『兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。』クリスチャンには自由が与えられています。「あれをしてはいけない。これをしてはいけない。あれもダメ。これもダメ。」という教条主義、律法主義。それによってがんじがらめにされる人生を送るように召されているではありません。私たちは何をしてもいいんです。ただし、その自由は愛によって制限されるものだということです。愛によって制限されない自由は、本当の自由ではありません。そのことも追々お伝えして行きたいと思えます。

もうひとつ大きな材料としまして、大前提としまして、私たちクリスチャンは神との関係を第一にするものであります。自分がどうではなくて、人がどうではなくて、人との関係がどうではなくて、むしろ神との関係。それがすべてであります。キリスト教は「**レリジョン**」"religion"ではなくて、「**リレーションシップ**」"relationship"と英語で言います。「**宗教ではなくて、関係なんだ。**」と。ですから、それが罪かどうか思い悩むのであれば、神との関係においてその行為は、神との関係を正しくするものか。それとも、誤りに導くものか。神との関係をより良いものにするか、それともより悪いものにしてしまうのか。その行為は、あなたを神により近づけるのか、それともより遠ざけるのか。そのような根本的な基準というものが私たちの中にあります。事細かくいろんなことをリストアップして、聖書にそのことが書いてあるかどうか探すまでもなく、神との関係を軸に。それが聖書に書かれていようと、書かれていまいと。まず神との関係から全てを始めていく必要があります。ここをスキップして、他のことを考えるということは出来ません。神との関係を抜きにして、いろんなことを調べて、吟味して、またいろんな見解を探し求めても、それは不毛であります。意味のない行為です。神との関係をまず最初に求めていくということ。「**神の国とその義をまず第一に求めなさい。**」イエスはそう命令しています。神の国は、神の支配。そして神の義は、神との正しい関係。これをまず第一に求めなさい。これを求めていけば、それが悪習慣かどうか、それが罪であるかどうか、簡単に判明します。私が長々と話すまでもなく、皆さんはその**マタイ 6:33**のそのひとつの聖句だけをもって判断がつくと思います。神の国とその義をまず第一ではなくて、二の次、三の次に求めていたら、もうその時点でアウトです。イエスの命令に反している以上、それが罪だということです。

また**ヘブル 11:6**も参照して頂きたいと思えます。そこには神様が喜ばれることは何か、と書いてあります。神が喜ばれること。『**信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならぬのです。**』信仰がなくては、神に喜ばれることは出来ない。その行為に信仰は含まれていますか。もし含まれていなければ、それを神は喜んでいないということです。これも一目瞭然です。具体的には、酒を飲む時、そこに信仰は含まれていますか。タバコを吸う時、そこに信仰は含まれていますか。ギャンブルをする時、パチンコをする時、そこに信仰は含まれていますか。信仰なんか、^{かけら}欠片もない。とするならば、それは神に喜ばれていない行為です。神との関係において神に喜ばれていないということは、これは致命的です。神に喜ばれないことは神との関係を傷めてしまうものだからです。クリスチャンであれば神様に喜んで頂くことが最高の喜びだということを知っているはずですが。ですから、神に喜ばれないことを続けている以上は、あなたは絶対に喜ぶ生活を送ることが出来ないということです。肉は喜ぶと思えます。肉に餌をやれば、肉は「**どんどんくれ。**」と言ってくると思えます。でも一時の快楽は、やはり一時の快楽で終わってしまうのであります。その喜びは薄っぺらいものです。あっという間に消えてなくなってしまうものです。でも、神を喜ばせることが叶うならば、その喜

びは深いものです。この世にはない豊かなものです。その喜びは誰も奪い去ることが出来ないものです。

またローマ 14:23 にはこう書いてあります。『しかし、疑いを感じる人が食べるなら、罪に定められます。(その後注目して下さい。)なぜなら、それが信仰から出ていないからです。信仰から出ていないことは、みな罪です。』信仰から出ていないことは、あれもこれもすべて罪だと言っています。神を信じること。神に信頼を置くこと。それが信仰です。信頼関係は、神との関係において不可欠なものです。それが無いとすれば、それは罪だと言っているわけです。その行為をもって神との関係に信頼をもたらすならば、よりいっそう神を信じる事が出来る、その信仰を深める、信仰を豊かにする、信仰を強める行為となるならば、それは間違いなく神に喜ばれる行為であり、それは勿論罪ではありません。でも、その逆だったらどうでしょうか。それは明らかに罪だと聖書は言っているわけです。この時点で今日の話はもう終えてもいいぐらいです。もう言うことはこれでない、言ってもいいぐらいですけれども、ただ他にも聖書の言葉がありますから、折角なので皆さんに、神様が私たちに伝えて下さっている愛の言葉を聞いて頂きたいと思います。神様は私たちの幸せだけを願っています。本当の喜びを知って欲しい。そして、ご自身との関係をさらに親密なものに、堅いものにしていくことが、神の望みであるということ。そのために邪魔になるもの、その関係にヒビを入れてしまうようなもの、その関係を汚してしまうようなものは避けなさいと。ですから、これは私たちをただ縛りつけて、この人生を楽しませないように、つまらない人生を送らせるように、神が意地悪して私たちに戒めているわけではないということ。ルールでがんじがらめにして、私たちが悪を行わないように、私たちのことを縛りつけるような目的で神の言葉があるのではなくて、その逆だということを知って下さい。むしろ、滅びに向かわないように、縛り付けてでも私たちをご自身のもとに置いておきたい。自分の一番近いところに、安全な場所に、一番幸福な場所に置いておきたい。それが神のハートだということを知って、そのハートを感じながら神の言葉をもう一度見直してみして下さい。このハートを感じなければ、「あれをしてはいけない。これをしてはいけない、という規則集だ。聖書なんて、とても読めたものではない。読む度になんかすし、読みたくなくなる。」と、そのように誤解している人があったならば、是非神の心を知って頂きたいと思います。

酒・たばこ・ギャンブル等の悪習慣は、もう悪習慣だということは既にお伝えしましたがけれども、勿論根拠がなく言うわけではなくて、当然根拠もあるわけです。聖書の根拠も 1 つなんですけれども、例えば昔から、これは狂歌で「酒飲むな。タバコ吸うな。の^や耶蘇教は、あ^あ面倒^{しゅうし}な宗旨なりけり。」あ^あ面倒^{しゅうし}というのは、“アーメン”とかけているわけです。キリスト教のことを揶揄して耶蘇教と言ったわけです。宗旨^{しゅうし}というのは、教義・教えということ。それは勿論一般に認識されていた誤解から出た歌でありました。まさに“狂っている歌”と言って良いと思います。聖書は「酒飲むな。」とは教えていません。勿論「タバコ吸うな。」も教えておりません。そんな言葉は、聖書に見つけることは出来ません。でも「あ^あ面倒^{しゅうし}な宗旨」ではないということを知って頂きたいと思います。むしろ、その逆です。酒を飲まなくてもいい。タバコを吸わなくてもいい。パチンコ、パチスロといったギャンブルに、自分のストレスのはけ口を求めなくてもいい。そんなことでお金を浪費しなくてもいい。時間を浪費しなくてもいい。もっと素晴らしいものが、もっと価値のあるものが、あなたには与えられているということを、聖書は説くのであります。むしろ、自由を説いているということを伝えておきたいと思います。酒を飲む自由、これも 1 つであります。でも、酒を飲まなくてもいい自由もあるということです。タバコを吸う自由もあります。でも、タバコを吸わなくてもいい自由というのがあるということを知って下さい。どちらの自由が優れているかということは今考えて頂ければそれで良いかと思います。先程もお話した通り、私たちはガラテヤ 5:13 にある通り、何をする自由を与えられているということです。ただそれを肉の働く機会としないだけです。愛によってその辺を私たちはむしろコントロール出来るということ、制約・制限をつけることが出来るということ。

そして私たちには知恵が与えられています。自分の頭でよく考えるように、神様が知恵を与えています。何も考えないで飛びついてはいけないということです。アルコールに完全に飲まれてしまっている人たちが大勢います。この日本には、アルコール依存症、あるいはアル中と呼ばれている人たちが 230 万人もいると言われています。またギャンブル依存症と呼ばれている人たちも 560 万人もいると言われています。他にもいろんな依存症が言われています。インターネット依存症とか、それも 270 万人。ニコチン依存症、1,534 万人。いろいろな依存症、子どもであれば

ゲーム依存症。また薬とかにも依存している人もあります。「もう睡眠薬を飲まなければ眠れません。」とか。勿論病気の場合もありますから、一概に薬を常用している人が皆依存症かと言ったらそうではないですけども、でも飲まなくてもいいものを飲む、それがないと不安になってしまうのであれば、それは立派な依存症であります。安定剤もその類たぐいであります。そういった薬物依存もありますし、買い物依存もあります。常に流行のものを買ってないと不安になってしまう、気が済まない。「あの人はあんなものを持っているし、私が持っていなかったら馬鹿にされる。流行遅れだと言われる。」とか、そういったものに囲まれていることに安心感を覚える。セックス依存症もあります。愛されたいという心のニーズが、平気で身体を許して、誰かに抱かれています、抱っこされているように思って安心するわけです。ただ単に卑猥だとか、淫乱だとかという話ではありません。人々は渴いています。何らかの形の依存症を誰もが持っていると言っても良いぐらいです。

ですから「あの人はアルコール依存症だ。あの人はニコチン依存症だ。あの人がギャンブル依存症だ。」と、自分がそうではないからといってそういった人々を見ては見下げるとか、「いやらしい。汚い。それでもクリスチャンか。」みたいな目で見ているならば、彼らが犯している罪と比べて自分の罪がもし見えなくなっているならば、それこそ恐ろしいものだと思って下さい。パリサイ人と取税人が並んで立って共に祈りを捧げているそのシーンを思い出して下さい。「私はこの取税人のようでないことを感謝します。」と。「私はあの人のようにタバコを吸いません。あの人のように酒を飲みません。あの人のようにギャンブルはしません。そのことを感謝します。」と、心の中でもそう思っていたならば、是非恥じて頂きたいと思えます。神はあなたの心をご覧になっています。そのような悪習慣を抱えている人と比べて自分がマシだ、まともだ、正しい、立派だと。人と自分を比較して自己満足しているならば、それほど愚かしい、寂しいことはないと思えます。イエス・キリストと自分を比べなければいけません。

いくつか、酒・たばこ・ギャンブルということを具体的に挙げましたので、それらについても皆さんに知恵を持って頂きたいと思えますので、具体的な数字を伴うお話をさせて頂きたいと思えます。人数のことは先程も触れましたが、何らかの依存症を抱えている人がこの国には 3,000 万人もいるとある人は言います。ほとんどいろんな形で依存症を持っていますから大半の人はそれが呼び名がなくても何かに依存しているということであれば、もうこの社会全体が依存症という病に冒されていると言って良いと思えます。家に帰ったら真っ先に何をするか。テレビをつけます。それは依存症です。もう携帯が手放せません。スマホが手放せません。もう失くしたらパニックを起こします。もうすぐに LINE だとか、Facebook だとか、Twitter とか、そういった類の SNS を見なければ 1 日が始まりませんか、1 日が終わらないとか、もう常にチェックしていないと不安で不安で仕方がありません。もう立派な依存症であります。

そういった依存症は病的なものもあります。文字通り病的というのは、体に害をもたらす、病をもたらす、健康を害するといったものもあるということです。アルコールに関しては一番深刻な問題の一つと言って良いと思えます。聖書においても、酒・たばこ・ギャンブルの中では、酒については聖書は言及しています。タバコについて、ギャンブルについては特に明記していません。でも、酒についてはいろんな聖句があります。ですからお酒についてはよくよく知っておく必要があります。これは日本においてでありますけれども、230 万人のアルコール依存症の人がいるということです。この教会にも何人かいてもおかしくないぐらいです。アルコールの問題を抱えている人たち、飲まずにはやっっていけないという人たち、「毎晩必ずビールは 1 本飲みます。晩酌が欠かせません。」そういう人は大抵もうアルコール依存症だと思って下さい。

これは 1 つの基準ですけども、次に挙げる 7 項目のうちの 3 つ当てはまれば、もう依存症と診断されるというものがあります。

第 1 に「前より沢山飲まないし酔えない。」

第 2 に「やめると不快感がある。」

第 3 に「前より酒量が増えている。」

第 4 に「やめようと思ってもやめられないことがある。」

第 5 に「それを飲む時間や得るためにかかる時間が長い。」

第6に「お酒のために仕事や社交の時間が減る。」

第7に「精神的・身体的な問題が起こっているのが分かっているにもかかわらずやめられない。」

今挙げた7つのうちの3つが該当したら、もうその人はアルコール依存症と診断されると言います。今皆さんは聞いてどうだったでしょうか。3つぐらい当てはまったら、あなたはアルコール依存症と言われてしまうわけです。飲酒する人の26人に1人はアルコール依存症とも言われています。世界的にはアルコールの危険性というのは非常に危険視されていて、お酒のコマーシャルは一切流さない。お酒の安売りはすべて規制される。お酒を売る営業時間も制限されるなどという取り組みがなされています。フランスやスウェーデンあたりでは、アルコール類のテレビコマーシャルは全面禁止であります。アメリカもそうですけれども、もう夜の11時を過ぎたらアルコールの販売は出来ません。この国はどうでしょうか。テレビを見たら、やたらとお酒のコマーシャル。この時期になったら、もうそろそろ夏で暑くなってきましたから、やたらめったらビールの宣伝をしていると思います。見たら飲みたくなるような、そんな広告がなされていると思います。あなたを如何にして依存症にするのか。それがコマーシャル業界の戦略であります。如何に依存症のお客さんを増やすか。そうすれば必ず儲かるんです。1人の人を依存症にできれば、100万円は儲かると言われてますから、とにかく何らかの形で依存させるようなありとあらゆる戦略を練るわけです。コンビニに行ったら24時間アルコールを買えるんです。これは異常だと思って下さい。世界的にはこれは異常なことなんです。規制がないと言っていいぐらいです。だから誘惑が周りに溢れているということです。

聖書においてお酒に関する言葉が数多くあるということも皆さん読んでいけば分かると思いますが、クリスチャンの中では、「むしろイエス・キリストもお酒を飲んだのであれば別に問題ないのではないかと。実際に聖餐式でもぶどう酒を飲むじゃないですか。」と。ただ、聖書は飲酒を勧めているわけではないということをもまず押さえて下さい。実際に飲酒の危険性を警告という形で述べている聖句の方が遙かに多いということ。それを挙げれば本当に多くあるんですけれども、例えば

レビ記 10:9『会見の天幕には行って行くときには、あなたがたが死なないように、あなたも、あなたとともにいるあなたの子らも、ぶどう酒や強い酒を飲んではならない。これはあなたがたが代々守るべき永遠のおきてである。』

民数記 6:3『ぶどう酒や強い酒を断たなければならない。ぶどう酒の酔や強い酒の酔を飲んではならない。ぶどう汁をいっさい飲んではならない。ぶどうの実の生のものも干したのものも食べてはならない。』

申命記 29:6『あなたがたはパンも食べず、また、ぶどう酒も強い酒も飲まなかった。それは、「わたしが、あなたがたの神、主である」と、あなたがたが知るためであった。』

士師記 13:4,7,14⁴ 今、気をつけなさい。ぶどう酒や強い酒を飲んではならない。汚れた物をいっさい食べてはならない。⁷けれども、その方は私に言われました。『見よ。あなたはみごもっていて、男の子を産もうとしている。今、ぶどう酒や強い酒を飲んではならない。汚れた物をいっさい食べてはならない。その子は胎内にいるときから死ぬ日まで、神へのナジル人であるからだ。』¹⁴ ぶどうの木からできる物はいっさい食べてはならない。ぶどう酒や、強い酒も飲んではならない。汚れた物はいっさい食べてはならない。わたしが彼女に命令したことはみな、守らなければならない。』

第一サムエル 1:15『ハンナは答えて言った。「いいえ、祭司さま。私は心に悩みのある女でございます。ぶどう酒も、お酒も飲んでおりません。私は主の前に、私の心を注ぎ出していたのです。』

箴言 20:1『ぶどう酒は、あざける者。強い酒は、騒ぐ者。これに惑わされる者は、みな知恵がない。』

箴言 31:4,6⁴ レムエルよ。酒を飲むことは王のすることではない。王のすることではない。「強い酒はどこだ」とは、君子の言うことではない。⁶ 強い酒は滅びようとしている者に与え、ぶどう酒は心の痛んでいる者に与えよ。』

イザヤ書 5:11,22¹¹ ああ。朝早くから強い酒を追い求め、夜をふかして、ぶどう酒をあおっている者たち。²² ああ。酒を飲むことでの勇士、強い酒を混ぜ合わせることにかけての豪の者』

イザヤ書 24:9『歌いながらぶどう酒を飲むこともなく、強い酒を飲んでも、それは苦い。』

イザヤ書 28:7『しかし、これらの者もまた、ぶどう酒のためによろめき、強い酒のためによろめき、祭司も預言者も、強い酒のためによろめき、ぶどう酒のために混乱し、強い酒のためによろめき、幻を見ながらよろめき、さばきを下すときよろける。』

イザヤ書 29:9『のろくなれ。驚け。目を堅くつぶって見えなくなれ。彼らは酔うが、ぶどう酒によるのではない。ふらつくが、強い酒によるのではない。』

イザヤ書 56:12『やって来い。ぶどう酒を持って来るから、強い酒を浴びるほど飲もう。あすもきょうと同じだろう。もっと、すばらしいかもしれない。』

ミカ書 2:11『もし人が風のまにまに歩き回り、偽りを言って、「私はあなたがたに、ぶどう酒と強い酒について一言しよう」と言うなら、その者こそ、この民のたわごとを言う者だ。』

新約聖書も挙げれば、多くあることは皆さんも知っておられると思います。むしろ聖書では、飲酒も認めておりますけれども、でもそれ以上に飲酒の危険性を何度となく警告しているということ。決して奨励はしていないということです。ただ、お酒を飲むこと自体は、禁止はしていない。その代わり危険性はあるということ、これは明確だということは、今挙げた聖句だけではないです。ざっと挙げただけですし、しかも旧約聖書の中だけで、新約聖書の中は敢えて今読みませんでした。後でも開くので、敢えて挙げませんでしたけれども、それだけあるということは認識しておいて頂きたいと思います。

特に神の御側^{みそば}で仕える聖職者と呼ばれている人たち、祭司という人たち(レビ人も含めて)、彼らはその務めを行う時は、ぶどう酒を飲んではいけないという、そういう規定がありました。レビ記 10:9 はその一つであります。またナジル人と呼ばれる献身者、彼らは一生涯 1 滴の酒も飲まない。一生断酒、禁酒ということです。ただ一般のイスラエルの人たちにおいては、飲酒は認められた、許容されたわけです。でも、神に仕えると心に決めた人たちは酒を 1 滴も飲まない。「それは旧約の話であって、私は祭司でも何でもありません。」本当でしょうか。皆さん、もう分かっていると思います。新約聖書において私たちは、祭司と呼ばれています。旧約の中で祭司は酒を飲まないというのであれば、特に務めにおいて、神を礼拝するという点において、私たちはどうでしょうか。考えなければいけません。

また皆さんの週報にも記しましたが、週報のところに『キリスト者は中毒についてどう考えるべきか』というインターネットにも挙げられている質問の答え、そこに「**中毒という言葉は 2 つの基本的な意味があり、1 つ目は肉体的または精神的に習慣性のある物質に依存している状態です。(その後)酒飲み(テトス 1:7、第一テモテ 3:3)、大酒の虜(テトス 2:3)、大酒飲み(第一テモテ 3:8)など、アルコール中毒者の人は教会の監督者になることはできません。教会を率いる者はシラフであり、自制心のある規範を持って人々を教えることができる必要があります。**」そういったリーダーとしての資質というものが挙げられている中で、アルコール依存症であるということは、もうリーダーとしての資格がないということを言っています。それは牧師だとか、ごく一部の教会のリーダーたちのことだけを指していると、自分には関係ないとして他人事のように捉えてはなりません。そうではなくて、もしあなたが神に用いられたいと願うならば、あなたもこの条項に自分を合わせていく必要があります。あなたもこの資質というものをしっかりと身につけていく必要があるということです。勿論「私は別に神に用いられなくたって構わない。」と言ってしまえばそれまでです。それがあなたの選びならば、それはそれで私は尊重します。「酒を飲むな。」とは言いません。でも、もしあなたが神に用いられたいと願うならば、考えなくてはなりません。「でも、飲んだっていいんでしょう？飲むこと自体、飲酒自体罪じゃないのですから。」とあなたは言うかもしれませんが、ただ**酒に酔うことは明らかな罪**です。そのことも聖書には明確に書かれていて、今読んだところの続きに「**酒に酔う者は皆神の国を相続できません。第一コリント 6:10**」とあります。他にも「**酒に酔ってははいけません。エペソ 5:18**」とハッキリと命令している箇所があります。ですから、泥酔、これはもう聖書では罪だと断じていますから議論する必要はないと思います。「でも、酔わなければいいのしょう？」そこが微妙なところ。実際に何を飲んで酔うのかと言うことを考えなくてはなりません。自分の基準で、この程度は酔っているうちに入らない。それで通用するでしょうか。「別に缶ビール 1 本飲んだぐらいで私は酔いませんよ。」でもそのまま運転してみてください。あなたは酒気帯び運転で捕まります。それはあなたが決めることで

はないということです。実際にアルコールの影響というのは、私たちの神経を麻痺させるものですから、酔っているつもりがなくても、実際には傍^{はた}から見たら普段とは違う、シラフとは明らかに違う。その差もハッキリするところもありますし、また実際にお酒を飲むという行為は、そもそも酔うために飲むわけです。「酔わないために飲む」なんて言ったら、馬鹿らしい話だと思いませんか。酔わないためにお酒を飲むなんて言う人は、多分 1 人もいないと思います。クリスチャンも正直になる必要があります。「私はお酒は飲みますけれども、酔いません。」それは嘘だと思えます。酔うつもりで、気持ちよくなりたいから、だから飲むんだと思えます。ですから、私も勿論浴びるように酒を飲んできた人間ですからよく分かります。酒を飲んだこともない人間がここで語っているのではありません。私もアルコール中毒者でありましたから、依存症の大酒飲みでしたから、よく分かります。酔わない飲み方なんて、至難の業です。それが出来るなら、凄い人だと思えます。ある意味尊敬します。余程完全な人だと思えます。他の分野でも規律正しく、きっちりと自分自身を制御出来る人だと思えます。でも逆に言えば、そういう人は多分酒を飲まないと思えます。皮肉な話ですね。私たちは自分に嘘をついてはいけません。詭弁を使ってはいけません。本当は分かっていると思えます。酔わずに酒を飲むことなど不可能だということ。「自分は酔っていないんだ。」と自分に一生懸命言い聞かせているだけです。神の目にはすべて明らかです。それは信仰から出ていないことなんて、明らかです。

そして他にも基準にすべき御言葉は無数にあるということを知って下さい。**第一コリント 10:23**『すべてのことは、してもよいのです。(キリスト者の自由です。)しかし、すべてのことが有益とはかぎりません。すべてのことは、してもよいのです。(繰り返し強調されています。)しかし、すべてのことが徳を高めるとはかぎりません。』ですから、キリスト教は、耶蘇教は、ああ面倒な宗旨ではなくて、実に自由な宗旨だと思って下さい。ハッキリと聖書には「すべてのことは、してもよい。」と言っているんです。勿論犯罪までしていいと言っているわけではありません。犯罪にならなくてもここでは、有益とは限らない。あるいは徳を高めるとは限らないと言っています。クリスチャンならばその自由を有益なことのために使うべきだと。肉の働く自由に使うのではなくて、有益なこと、あるいは徳を高めること、建徳目的であるべきだと言っているわけです。徳を高める、建徳というのは、建て上げるというのがその原意です。破壊するのではなくて、建て上げる。それによって霊的に成長するかどうかという話です。逆だったらどうでしょうか。どんどん身を持ち崩す。どんどん墮落していく。ますます肉的になっていく。霊的には後退していく、バックスライドしていくならば、それは、たとえて良いことでも、すべきではないという話しであります。

また**第一コリント 10:24**に『**だれでも、自分の利益を求めないで、他人の利益を心がけなさい。**』愛に生きるクリスチャンは、自分の利益だけのために生きるのではないということです。冒頭にもお話した通り、「他人に迷惑さえかけなければそれでいいんだろう。」それはクリスチャン的ではありません。クリスチャン的には、**他人の利益を心がける。**もっと積極性のあるものです。世の中は消極的です。「他人に害さえもたらさなければ、いいじゃないか。」と。でも、クリスチャンは一歩進んで、他人の利益を心がけなさい。その行為によって究極の利益とは、その人がイエス・キリストを信じるようになるのであれば、大いにすべきだということです。それが他人に対する最大の利益をもたらす行為です。例えばお酒を飲むことによってその人が間違いなくイエス・キリストを信じるようになる。だったらもうじゃんじゃん飲んで下さい。その代わり酔わないで下さい。だったらタバコをプカプカ吸って下さい。それによって最大の利益であるイエス・キリストを信じる信仰にその他人が至っていくならば、大いに奨励されるべきことであります。ギャンブルに至っても同じです。自分さえ良ければ。他人に迷惑さえかけなければ。自分の利益のことしか考えないのであれば、それはもはやクリスチャンとは言えません。

また**第一コリント 10:31**も見て下さい。『**こういって、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現わすためにしなさい。**』食べるにも、飲むにも、酒を飲むのも、タバコを吸うのも勿論含めて考えて下さい。何をするのも、ギャンブルもそうです。**ただ神の栄光を現わすためにしなさい。**これは命令形です。酒を飲みながら、タバコを吸いながら、パチンコをしながら、神の栄光を現わすことが出来るならば、大いにそうして下さい。でもそうでなければ、神の栄光を現わすことが出来ないならば、命令違反だということです。命令違反ということは、勿論罪ということです。言うまでもないことです。

第一コリント 6:19~20 も開いて見て下さい。『¹⁹あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。²⁰あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。』自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさいと。酒に酔った状態で、千鳥足で神の栄光を現わすことが出来るでしょうか。勿論出来ません。タバコをプカプカ吸いながら、あるいは吸い終わっても吐く息はタバコ臭いです。体も、髪の毛も、衣服にも全部そのタバコの臭いが付いています。それで教会に来て、その体をもって神の栄光を現わすことが出来るか。よくよく考えて頂きたいと思います。体をもって出来る限り神に最大限の栄光を帰するために私たちはベストコンディションをもって礼拝に臨む必要があります。しっかりと体を休めて、日曜日礼拝において、この体をもって神をほめたたえることが出来るように、睡眠もしっかりとって、栄養もしっかりとって、ベストコンディションで臨む。疲れたままで、眠気眼で、或いは暴飲暴食をしてもう胃腸を痛めた状態で来るとか。それは避けなければいけないことです。ましてや、酒を飲んで酔っ払って二日酔いで来るとか。あるいは礼拝にここに来る直前にタバコをプカプカ吸って、しばらく教会の中では、建物の中では吸えないから。来る前にしっかり吸ってから、そしてまた終わったらその途端に吸いにまた出て行く。体が、脳がニコチンがなければ生きていけないような状態にしてしまう。そうしてしまうのであれば、残念ながら神の栄光を現わすことは出来ません。

今読んでいる箇所にはありませんけれども、ローマ 12:1 のところには礼拝において体を使うということがこのように表現されています。『そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。』注目すべきは、「あなたを」とは言っていないで、「あなたのからだを」と言っています。「私は教会には行けませんが、遠く離れたところで神様のことを思い、遠く離れたところでも礼拝しています。」そういうケースも、例えばもう病気で、或いは寝たきりになってしまって、どうしても物理的に肉体的にここに来れない人においては、それは正論だと思います。でも、そうでない場合もあります。「疲れているから、面倒くさいから、忙しいから。気持ちだけはみんなと一緒に礼拝をしていますよ。」みたいな。「また時間が空いたら教会に行きますよ。」と。でも、聖書は、「あなたのからだを」と言っています。体を持ってくるということが礼拝であります。気持ちだけではなくて、体を用いて。その体は、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物でなければならない、と言っているわけです。今あなたの体は、神に受け入れて頂けるものとなっているのでしょうか。聖い、生きた供え物という体になっているのでしょうか。この体をもって私たちは何をしていますでしょうか。何をして来たでしょうか。「自分の体だから、何をしたら構わないじゃないか。誰にも迷惑をかけていないし、減るもんじゃないし。」聖書は、あなたの体はあなたのものではない、とハッキリ言っています。だからクリスチャンとして、もし「自分の体は自分のもので、自分の好きなようにして何が構わないのか。」などという発言をしているならば、その人は聖書を頭から否定している人で、神を否定している人でもあります。イエス・キリストが命の代価をもって私の体を、あなたの体を買って取って下さったんです。それは何故かと言ったら、あなたがもう罪の奴隷にならないために、解放して下さるためだったんです。なのに私たちはまた罪の奴隷に逆戻りしようとして「否、これは私の体です。誰にも私に何かを言う権利はありません。」と。それはイエス・キリストの十字架の贖いの死が無駄死にだったということを言うに等しいことです。自分の体は自分のものだと言うのは、イエスの贖いを拒否しているということに他なりません。自ら救いを拒否するような愚かなことは、普通考えないと思います。でも、罪のうちに陥ってしまうとそのような愚かしい考えを持ってしまふんです。本来言ってはいけないようなことを、言ってしまうんです。「自分の体であって、何をしたら構わないんだ。」と。そうではなくて、それはイエス・キリストのものであるということです。イエス・キリストのものであれば、イエス・キリストの目的のためにその体は使われるべきものだということです。もう私たちは自分の体に関しては何の権利も持っていないということです。だから私たちはイエスを主と信じたはずです。しもべですから。しもべには自分の体に関する権利はないわけです。主人に何をされても構わない。主人は生殺与奪の権利を持っていて、生かすも殺すも主人次第です。でも、私たちの主は私たちを愛して止まない方ですから、私たちを生かすことしか考えていません。私たちを祝福することしか願っておられません。

その方がおっしゃる言葉です。聞かなければいけません。

そして**第二コリント 5:10**『なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現われて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。』私たちが肉体の死を迎えてイエスの前に立つその時か、もしくは生きたまま携挙されて立つその日か。それぞれ違うと思いますが、でも行き先は同じです。私たちは天国に行く前にキリストのさばきの座に立つわけです。そこで何を経験するかと言ったら、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けるとあります。自分の肉体にあってした行為、それが全て評価されるということです。今私たちは自分で自分のことを評価しているかもしれません。でもイエス・キリストが、天国に行く前に私たちが自分の肉体においてしたことを評価されます。恥ずかしいと思うことがあれば、今すぐやめて下さい。イエス・キリストが明らかに悲しまれると思われる行為ならば、今すぐやめて欲しいと思います。やめるべきだと思います。それがあなたにとって後悔のない、憂いのない、平安のあることだと思います。

また**ガラテヤ 5:19** 以降を見ます。『¹⁹肉の行ないは明白であって(とあります。肉体において、特に肉の行ない。これには要注意です。肉体における行ないがすべて肉の行ないというわけではありません。ご飯を食べることは肉の行ないかと言ったら、そうではないです。食欲、性欲、それらが全て悪いわけではないです。でも、この肉というのが、肉欲とも表現されますが、これが危険なものだということをここで覚えたいと思います。)、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、²⁰偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、²¹ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです。前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言うておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。』神の国を相続することはない。言い換えれば、天国に行くことではないということです。私たちは、神の国とその義をまず第一に求めるように生きるべき者だということは、先程言いました。であるならば、この肉の行ないは、絶対に避けなければいけないことです。この中に“魔術”という言葉があります。“魔術”はギリシャ語で「ファーマキア」と言います。「ファーマキア」とは英語の「ファーマシー」"pharmacy"の語源でもあります。「ファーマシー」と言ったら、薬局とか薬のことを言います。薬物です。この薬物を使う行為、それが“魔術”と。当然薬物に依存するわけです。薬物を偶像化するわけです。それがなくては生きていけない。それが自分を喜ばせる、幸せにする、楽にする、気持ちよくする。これがなくては生きていけない。ニコチンがなければ、アルコールがなければ、危険ドラッグがなければ、大麻がなければ、覚醒剤がなければ。全部「ファーマキア」です。それが魔術の罪と言って良いと思います。ですから、タバコのこと是一切言及されていないと言いましたけれども、でも薬物全般が、この魔術という言葉の中に含まれているということを覚えたいと思います。

この魔術は、**黙示録 21:8**でも言及されています。『しかし、おくびょう者、不信仰の者、憎むべき者、人を殺す者、不品行の者、魔術を行なう者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者どもの受ける分は、火と硫黄との燃える池の中にある。これが第二の死である。』第二の死というのは、永遠の死、永遠の滅びということです。地獄ということです。

黙示録 22:15もお読みします。『犬ども、魔術を行なう者、不品行の者、人殺し、偶像を拝む者、好んで偽りを行なう者はみな、外に出される。』外というのは、神の都の外です。天国の外ということです。“魔術”繰り返して出て来ております。ニコチン、アルコール、ありとあらゆる薬物。それが合法的なものも含めてです。依存しているならば注意が必要であります。

でも、その魔術の罪だけを取り立てて私は皆さんにきつくこれだけが飛び抜けて悪い罪だと言っているのではありません。他の罪と併せて述べられているということ、そこに注目して頂きたいと思います。あなたは酒は飲まないかもしれない。タバコは吸わないかもしれない。またギャンブルとか、そういった遊興。先程も**ガラテヤ 5章**のところに酩酊そして遊興も含まれていました。この遊興の中にギャンブルも含めて良いと思います。一切そういうものをしませんと。でも他はどうでしょうか。敵意、争い、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ。他はどうでしょうか。おくびょう者、不信仰、憎むべき者、不品行もあります。偶像を拝む者もあります。また、すべて偽りを言う、嘘をつくということ。「しょっちゅう嘘をついています。嘘ばかりついています。コロコロ言うことを変えます。」全部地獄行きの罪です。ですから、これをやめない人たち、それで良しとして正当化していつまでも続ける人たちには、何の保証もないということ

お伝えしておきたいと思います。「これは罪だと分かりました。私は主の前にこれを告白し、今すぐ悔い改めます。もうやめます。金輪際手をつけません。主よ、どうか助けて下さい。自分の力ではやめられないんです。」と、そうやって主に従うことを選ぶ者には、当然赦しもあります。当然主の助けが与えられます。でも、それを望まないならば、むしろそれを正当化して「別に悪いことじゃない。他の人もやっているし、別に死ぬわけでもないし、迷惑かけるわけでもないし。」そうやっていつまでもやめないならば、警告が聖書の中にあるということを感じて欲しいと思います。これは神からの警告でありますから、私からの警告と思わないで下さい。牧師がそう言っているからじゃなくて、皆さんにいつも間違っていて欲しくないことは、聖書がどう言っているかが全てであって、人がどう言おうとあなたが聖書を読んで、そこに書かれていることをしっかり文脈を踏まえて捉えて頂いた上で、自分はその言葉に対してどう応えるか。それだけです。私はそこには入り込めません。どうこうすることは、この私には出来ないんです。でも、警告だけは出来ます。忠告だけは出来ます。でも、実際に神との関係を正しく持つのはあなたなんです。私はその間に入り込んで、何とかして神とあなたとの関係を私自身が正すことは出来ないんです。残念ながらそれは出来ません。出来るのはせいぜい警告を与えるぐらいあります。それが預言者の働きです。そして預言者は嫌われます。聞きたくないことを言うからです。今、中には物凄い不快な思いをしている人もあると思います。そしてこのメッセージを録音したものをまたどこかで聞く人たちも「嫌なことを言うなあ。」と、「きついことを言うなあ。」と。もう聞くに耐えないと思っている人もあるかもしれません。そう思われても別に私は何も問題ありません。私自身が責任を果たせば、主がそのことを認めて下さいます。でも私が「こんなことを言ったら傷つくんじゃないか。こんなことを言ったら却って不快な思いをさせて、もう教会にも来なくなるんじゃないか。ちょっと控えておこう。ここは黙っておこう。ここはもっと遠回しな言い方で、オブラートに包んで、もっと優しく。どのようにも、如何様にも取れるような、逃げ道を作るような。」そういう言い方はいくらでも出来ます。でも、私はそのことで主に問われることになります。あなたは明確に私の言葉を伝えたかと。マウスピースとして忠実に着色をつけずにストレートに語ったかどうか。省くこともせず、付け加えることもせず、書かれている通りのことを伝えたかどうか。そのことが私に問われるわけです。ですから、私は私の責任においてこのことをしております。後は皆さんが自分の責任において主に応えて欲しいと思います。勿論皆さんが応えなくても、私は皆さんを愛しています。別に嫌悪感など抱きません。ただ、残念に思うだけです。正直に言えば、心が痛むだけです。折角神様が用意して下さっている祝福をみすみすみ逃すなんて、もったいないなあと思うだけです。

もう一つ**第一コリント 10:32** のところに『ユダヤ人にも、ギリシヤ人にも、神の教会にも、つまずきを与えないようにしなさい。』つまずきを与えないようにしなさい。イエス・キリストは、私を信じるこの小さい者たちにつまずきを与える者は、わざわざだとおっしゃいました。忌まわしいとおっしゃいました。具体的には、この教会に集う小さい子供たちにつまずきを与える者たちは忌まわしいものだ、イエスがおっしゃっているわけです。その者は首に石臼を巻きつけられて海の深みに沈められて溺れ死んだ方がマシだという、激しい厳しい言葉をイエスご自身が使っています。私が使っているのではなくて、イエスがそうおっしゃっているんです。もしあなたの行為が、自分の好きでやっていること。「人にとやかく言われたくない。昔から慣れ親しんでいること。」そう言いながらもつまずきを与えているならば、それは完全にアウトだと思って下さい。特に小さい子供たちにつまずきを与えるようであれば、それはひどいものだと思います。お酒、タバコがどうして未成年には限られているか、考えなくても分かると思います。世間一般の常識でも、それは健康に良くないからです。未成年において健康に良くなければ、当然成人においても健康に良くないのは当たり前です。同じ人間ですから。でも成人は自己責任でそれらを摂取するわけです。そして最初は、私もそうでした。自分がニコチン中毒になるつもりなんかなかったんです。自分がアルコール中毒になるつもりなんかさらさらなかったんです。最初から中毒者になるつもりでそれらを飲む人たちは1人もいないと思います。気が付いたらそうってしまったんです。もうやめられない状態になったわけです。弱い人間だということです。酒に飲まれるなといっても、簡単に飲まれる人間なんです。自分がそんなに弱いのに、どうして自分の子どもたちに「酒飲みになるな。アルコール依存症になってはいけない。自分のようにタバコをプカプカ吸って、体の調子を悪くするような者になって欲しくない。健康を害して欲しくないんだ。あなたには健康でいてもらいたい。元気に暮らしてもらいたい。」

親であれば子供たちにはそう願うはずで、なのに自分は平気でそれらの行為を楽しむ。実に矛盾した行為です。子供たちにおいても悲しいと思います。「お父さん、お母さんが元気でいて欲しい。」それは子どもの願いです。でも、その子どもの願いを踏みにじってまで、自分の好きなものをどんどん体に取り入れて。それは毒です。アルコールもニコチンも人体においては毒です。ですから、毒としての反応が体の中起きるわけです。勿論それは法律では成人においては禁止されていませんから自由があります。でも、クリスチャンとして考慮しなくてはならないことを今お伝えしました。子供たちにおいて、それは自由に出来るかどうか。試しに教会の子どもの前でお酒を飲んでみて下さい。子どもの前でタバコをプカプカ吸ってみて下さい。子供たちの顔にタバコの煙をふーと吹きかけてみて下さい。それが平気で出来るなら続けて下さい。でも、出来ないと思うならばやめるべきだと思います。イエス・キリストとお話ししながら、あなたは酒を飲み続けることが出来ますか。イエスの目の前でタバコを吸い続けることが出来ますか。それが、私たちが考えなくてはいけないことです。自分一人ではないということです。私たちは自分よがりであってはいけないということ。他人の利益も心がけなさいと言われていました。

そういった基準というものは聖書の中にあることは前から知っていたと思いますけれども、でも「知っていてもやめられないんです。分かってはいるけれどもやめられないんです。」と。そういう人も勿論あると思います。今お話ししたことは、ここに集う人だったら前にも聞いたことがあると思いますし、何度なく聞かされていることだと思います。「それでもやめられない。心の奥底ではやめたいんです。嘘偽りがなく本当はやめたいんです。でもプライドがあつてなかなか自分の弱さを認められないんだ。やめると言ってやめられなかったら、それほど恥ずかしいことはない。だから下手にやめるとも言えないし。」どん詰まりの人もあると思います。週報にも挙げた聖句ですが、**ガラテヤ 5:16**にこう書いてあります。『私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことは**ありません。**』肉の欲望。その話をずっとしてきたわけです。それは肉の行い。それは明らかに悪習慣です。悪癖があります。なぜならばそれはあなたを神の国から除外してしまうものだからです。これ以上の悪はないと思います。健康を害するだけではなくて、神の国からもあなたを除外する。これはまさに悪癖、悪習慣と言わざるを得ないものです。でも、御霊によって歩むならば、その肉の欲望をコントロール出来ると言っているわけです。肉、あるいは肉欲というのは、自己中心的な生き方を言います。御霊によって歩むとは、聖霊によって歩むということですから、神中心の生き方を言います。肉欲を何とか抑えよう。何とか自制して。意志の力で。或いは、医者の方で、薬の力で、カウンセリングの方で。いろいろな手助けもあるかと思いますが、禁欲しようと思えばするほどどうしてもそのことを意識してしまいます。タバコをやめようとか、お酒をやめようと思ったら、もうタバコのことばかり考えてしまう、お酒のことばかり考えてしまう。他のことも含めてそうです。それよりも、聖書は『**御霊によって歩みなさい。**』と言っています。悪習慣というのは、良い習慣によってしか克服出来ないものです。悪習慣をやめても。ノンクリスチャンでもタバコをやめる人はいくらでもいます。何十年も吸ってきたのに、ヘビースモーカーだったのに、いとも簡単にやめられる人もいます。でも、クリスチャンなのにやめられない人も多くあります。でも、たとえやめられても、その人はそれまではタバコなりお酒をもって満足を得ていたわけです。いきなりタバコや酒をやめて満足がなくなってしまうたらどうでしょうか。大変なことになります。ですから、別のもので代用して満足を得ようとするだけであります。酒をやめることが出来たとしても、タバコをやめることが出来たとしても、別の他の何か代用品で自分の肉を満足させようとしています。それは仕事かもしれませんし、それは他の何か、いろんな趣味であり、いろんな活動なり、いろんなものがあると思います。結局はまた依存症。新たな依存症。酒に取って代わられるものが他にゴロゴロ転がっているわけです。タバコに代わるものが(電子タバコかもしれませんが)ゴロゴロ転がっているわけです。でも、それでは堂々巡りです。何らかの依存症を一生抱えたまま終わっていただけです。

でも、御霊によって歩むならば、それらはすべて克服出来ます。良い習慣です。神と共に歩むということ。「聖霊によって歩むと一口に言ってもなかなか具体的にどうしたらいいか分かりません。」と言う人もあると思います。聖霊によって歩く、聖霊によって満たされるとも言えるでしょう。**エペソ 5:18**のところは、今朝も開いたところです。『**また、酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。**』

そして、こと合わせて午前礼拝では**コロサイ 3:16** も比較してお読みしました。『**キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。**』御霊に満たされると、同じことが起こります。ちょうど**エペソ 5:19** の内容は、聖霊に満たされた人の成すことです。(『¹⁹**詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。**』)一方で**コロサイ 3:16** は、キリストの言葉がその人の心に豊かに住んだ時に起こる現象です。みんな比べて頂くと、そっくりそのまま同じことが起こるといことが分かります。御霊に満たされることと、キリストの言葉を自分のうちに住ませることは、実質同じことだということです。具体的にどうしたらいいかというのは、そこから教えられません。何らかの衝動に駆られる時、禁断症状とか、誘惑に駆られる時、その時にあなたは御霊に満たされることを選ぶならば、必ず克服出来ます。キリストの言葉を自分のうちに豊かに住ませることに心を傾けるならば、必ず克服出来ます。実際に、今この時間帯、あなたはタバコ吸わないで済んでいます。酒を飲まないで済んでいます。教会で神の家族と一緒に居る時、それらの悪習慣からあなたはその時守られているわけです。それをしなくても済んでいるように、これは出来ているということです。でも、一人になったらどうなるでしょうか。経験的に分かると思います。ですから是非自分が弱いことを自認して、そして認めた上で、「じゃあ、どうしたらいいのか。」と真剣に考えて頂くことが私からの望みであります。厳粛に受け止めて頂きたいと。そして具体的には、どのようにしたら肉の欲を満足させないで神に喜ばれる歩み出来るのかということも、今一つ一つ聖書からも説きました。聖句の一つ一つを思い巡らしてみてください。すべてのことはしても良い。でも、すべてのことが有益とは限らない。また、神の栄光を現わすものかどうか。小さい子供たちに特につまずきを与えるものであるかどうか。そもそも、それは信仰と関わりがあるかどうか。信仰を含んでいるかどうか。でなければ、神に喜ばれない。でなければ、それは罪であると。罪だと分かった時点で、すぐにその罪を言い表して下さい。罪を犯しながらも認めずに罪を犯し続けるならば、あなたの魂はこれからますます冒されてしまいます。病んでしまいます。霊が弱くなります。そうしたら、肉が強くなります。そうなったらクリスチャンとは言え、なかなか悪習慣から脱することは出来なくなります。それが泥沼化していくということは、もう目に見えています。結局は頭で分かっていると言いながら、自分の心の中ではそうしたくないと、そうするつもりはありませんと、自己矛盾を抱えたまま、自分自身に苦しみをもたらし続けるわけです。クリスチャンでありながらも解放されない。本当の自由がない。どこか不自由なわけです。折角クリスチャンになったのに、もったいないと思います。クリスチャンでない人たちには、そのような価値あるものが与えられていないんです。聖霊の力が与えられていないんです。いつまでも残る信仰、希望、愛などといった永遠のものが与えられていないわけです。もちろん永遠の命もクリスチャンでない人たちには与えられておりません。私たちにはもうそれらの祝福が与えられているということですから、それをしっかりと自分のものとして握り締めて、それを活用していく必要があります。宝の持ち腐れではなくて、もっと使っていく必要があります。

最後になりますけれども、酒を悪習慣として、飲酒の習慣を悪習慣として、アルコール依存症のような状態になっているならば、御霊に満たされなさいと言われていています。酒に酔うのではなくて、御霊に酔うように。酒にコントロールされるのではなくて、聖霊にコントロールされるように。

「タバコの煙、これをくゆらせるのが何よりも楽しみです。ほっとします。スッキリします。」そういう人も是非、キリストの香りを放つものに変えられて欲しいと思います。また、聖書で煙とか、香神の煙と呼ばれているものは、聖徒の祈りというふうにも表現されています。どうしても口に何かをくわえなければ苛立ってしまう。そう思うならば、是非その口に祈りの言葉をくわえて欲しいと思います。祈りの香を焚いて欲しいと思います。

ギャンブルがどうしてもやめられないようであれば、神に人生を賭けるというギャンブルをして欲しいと思います。自分の命を賭けて。これは正確にはギャンブルとは言えないと思います。ギャンブルは一か八かというところがあります。でも、神を信じて行くギャンブルであれば、それは冒険的信仰とも言いますが、そこにはハズレはありません。損はありません。後悔はないんです。負けはないんです。神に人生を賭けていけば、勝利のみです。得るものは、あなたが想像する以上のものです。自分の命を賭けても、有り余るものをあなたは頂くことが出来ます。既に神はご

自身の命をあなたのために賭けて下さっているのですから、簡単に自分の命ぐらい神に賭けることが出来ると思います。命がけで信仰生活を全うして頂くことを皆さんにお勧めしたいと思います。そのようなギャンブルは神に喜ばれます。そしてそこには、神に喜ばれているという他には得られない喜びが伴いますので、もう肉の欲を満足させるような気持ちも湧いてきません。何でこんなつまらないもの、くだらないものに満足感を得ていたのか。お金をかけて。毎日毎日ビール 1 本を飲んだら、年間でいくらになりますか。毎日毎日タバコを 1 箱吸ったら、年間でいくらになりますか。計算してみてください。200 円位のビールとして、タバコだったら(どんどん値あがっていますけれども)440 円とか 460 円ぐらいでしょうか。毎日毎日、それを 50 年間続けていくらになりますか。勿論酒は、酒だけではなくてつまみも買います。タバコ吸っていたら喉も乾きますから、やはり伴っていろいろあるわけです。勿論それで健康も害しますから、それでもお金を使います。そうしたらあつという間に 50 年も経てば、豪邸が建ちます。教会が建ちます。何軒も建ちます。1 人がそうやってすべてを神に捧げるならば、教会は何軒でも建つと思って下さい。たったその一つの嗜好品、あるいはいくつかの嗜好品を神の栄光のために捧げるだけで、教会が建つんです。今私たちは会堂建築をプロジェクトで進めておりますけれども、もしあなたのその悪習慣をすべて神に捧げるならば、この会堂はとっくに建っていたと思います。そのことも考えてみてください。これまでどぶに流すようなことをしてきた。何も残らないもののために。ただ尿として流れてしまう、ただ灰として捨てられてしまう、煙になってしまう、そのようなもののために折角神様から頂いたお金も、仕事も、家族も、自分の肉体の健康も、すべて代償にしてきてしまったならば。そして神の栄光を何よりも傷つけてしまってきたならば、それを大事と受け止めていただいて、そしてこれ以上後悔しないように、今晚この時決心して頂きたいと思います。「ただやめる。」とか言うのではなくて、積極的に「これからは自分の体を神に受け入れて頂ける生きた聖い供え物として捧げます。」という決心をして、すぐやめられなくても神様はあなたのことを見捨てません。やめられるようにして下さいます。ある人は何年もかかってやめる。ある人は一瞬にしてやめる。いろいろタイミングもありますし、神の方法があります。でも、あなたが拒み続けるならば、それは神様が手をつけたくてもつけられないことになりますから、是非自分の力でなんとかしようなんて、いつかやめてみせるなんて思わないで下さい。そんなことを思っているうちに、あなたの人生は終わっていきます。そうではなくて今晚決心して、そして後は神に委ねていくということ。タバコを吸いたくなくても、酒を飲みたくなくても、ギャンブルしたくなくても、あなたはその時に選べるんです。正しい方を選んで頂きたいと思います。もっと価値のある方を選んで頂きたいと思います。神様が見ているということ。誰も見ていないと思っても、神はあなたのことを慈しみを持って見つめておられます。早くすべてから解放されて。勿論私が言っているのは、酒、タバコ、ギャンブルのみに限定して話しているのではないことを繰り返し伝えておきますけれども、他人事のように聞かないために、あなたにはもっと深刻な依存症があるかもしれません。もっと深刻な依存症。それは自分の胸に手を当てれば分かると思います。どうしてもこれがやめられない。どうしてもこれがつきまとう。物だけではないです。人間かもしれません。或いは良いと思われている習慣かもしれません。世間一般には、それは素晴らしいと言われていること。法律にも触れない。むしろ世の中には役に立つと言われていることかもしれませんが、神の目にどう映っているのか、そのことを皆さんは信仰があるので自分で吟味出来ると思います。神に喜ばれているかどうか、自分の信仰で判断してみてください。信仰から出ていないことは、皆罪です。そのことを示されたら、躊躇なく罪を告白して、捨て去って欲しいと思います。代わりに神があなたに与えてくださるものがどんなものか。お酒、タバコ、ギャンブルのスリリングな、そんな快樂に遥かに優るもっと素晴らしい祝福を、本当の満たしを、幸福をもたらすものを、神はあなたのために用意されています。それに取って代わるものが、もう既に用意されているんです。そのことを期待して、「しょうがない、やめるか。」ではなくて、「主に期待します。もっと素晴らしいものをいただけるなんて、こんなに嬉しいことはありません。本当にこんな私にも下さるのでしょうか。驚きです。」と思いながら、是非信仰をもって受け取って頂きたいと思います。では、今日はこれで終わりたいと思います。